

言語学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
言語学特論Ⅰ	コーパス言語学の理論的基盤	2	後藤 齊	1学期	月	2	1	言語学特論Ⅰ
言語学特論Ⅱ	言語と思考	2	小泉 政利	2学期	水	5	2	言語学特論Ⅲ
言語学特論Ⅲ	音韻論概説	2	那須川 訓也	1学期	水	3	3	言語解析学特論Ⅰ
言語学特論Ⅳ	言語の対照研究	2	井上 優	集中(2学期)			4	言語解析学特論Ⅱ
学習・言語心理学特論Ⅰ	学習・言語心理学方法論	2	木山 幸子	1学期	水	2	5	言語学特論Ⅳ
言語学総合演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	後藤 齊、小泉 政利、木山 幸子	1学期	金	4	6	言語学研究演習Ⅰ
言語学総合演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	後藤 齊、小泉 政利、木山 幸子	2学期	金	4	7	言語学研究演習Ⅱ
言語学研究演習Ⅰ	実践音声学	2	後藤 齊	2学期	金	2	8	言語解析学研究演習Ⅰ
言語学研究演習Ⅱ	統語論初中級	2	小泉 政利	1学期	水	4	9	言語解析学研究演習Ⅲ
言語学研究演習Ⅲ	言語実験・調査実践	2	木山 幸子	2学期	月	2	10	言語解析学研究演習Ⅴ

科目名：言語学特論Ⅰ／Linguistics (Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LM11206，科目ナンバリング：LIH-LIN601J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：言語学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

コーパス言語学の理論的基盤

2. Course Title（授業題目）：

Theoretical basis of corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：

コーパスの手法による言語研究について、実習をまじえつつ、講義する。コーパス言語学及び言語学の様々な研究手法に関する参考資料を読むことによって、コーパス利用の特性を際立たせる。

4. 学習の到達目標：

種々の言語学研究法との対比におけるコーパス言語学の特徴を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：言語学の流れ（19世紀まで）

第2回：言語学の流れ（20世紀前半）

第3回：言語学の流れ（20世紀後半）

第4回：コーパス言語学の成立

第5回：コーパス言語学の展開

第6回：コーパスの設計

第7回：さまざまなコーパス

第8回：アノテーション

第9回：表記

第10回：多義語と同綴語

第11回：コロケーション

第12回：構文の検索

第13回：社会言語学的要因

第14回：より高度な利用

第15回：全体のまとめ

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

テキストは用いない。参考資料を授業中に適宜配布する。

8. 授業時間外学習：

資料を参考にして、言語現象への考察を深め、また、実習の条件を変えて試行してみること。

9. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅱ／Linguistics (Advanced Lecture) I I

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LM23509， 科目ナンバリング：LIH-LIN602J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

言語と思考

2. Course Title（授業題目）：

Language and Thought

3. 授業の目的と概要：

どのような語順の言語を話すか（母語に持つか）にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある（e. g. Goldin-Meadow et al 2008）。この一般化が OS 言語（目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語）の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。

4. 学習の到達目標：

言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：言語と思考
2. SO 語順選好
3. カクチケル・マヤ語
4. 文理解における語順選好 I：行動実験
5. 文理解における語順選好 II：fMRI
6. 文理解における語順選好 III：脳波
7. 言語の基本語順と思考の順序
8. ここまでのまとめと復習
9. 文産出における語順選好 I
10. 文産出における語順選好 II
11. 文産出における語順選好 III
12. 文の理解と事象の認識
13. 文産出における処理負荷
14. カクチケル語の統語構造
15. まとめ，筆記試験

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・筆記試験：60%
- ・読書レポート：20%
- ・ミニット・ペーパー：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅲ／Linguistics (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：那須川 訓也（非常勤講師）

講義コード：LM13307， 科目ナンバリング：LIH-LIN603J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語解析学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

音韻論概説

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to phonology

3. 授業の目的と概要：

この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節・超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. 学習の到達目標：

この授業を通して、言語話者が用いている (i) 母語の音体系について、(ii) 母語が呈する音現象を制御している規則、(iii) 一般文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第 1 回：音韻論とは何か。

第 2 回：音韻論と音声学

第 3 回：規則体系としての言語

第 4 回：言語機能

第 5 回：中核文法と周辺体系

第 6 回：音素論

第 7 回：音素と異音

第 8 回：対立分布と相補分布

第 9 回：異音規則

第 10 回：音配列論と音節構造

第 11 回：音節ときこえ度

第 12 回：同化と素性

第 13 回：超分節現象

第 14 回：音韻規則

第 15 回：形態論的に条件付けられた音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

6. 成績評価方法：

レポート課題×2 (50%)，確認テスト×1 (50%)

7. 教科書および参考書：

教科書： 小泉 政利（編）2016.『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

8. 授業時間外学習：

毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

9. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅳ／ Linguistics (Advanced Lecture) Ⅳ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， **単位数：**2

担当教員：井上 優（非常勤講師）

講義コード：LM98832， **科目ナンバリング：**LIH-LIN604J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 言語解析学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

言語の対照研究

2. Course Title (授業題目)：

Comparative study of language

3. 授業の目的と概要：

言語の対照研究は、複数の言語を比較対照することにより、(1)それぞれの言語の特性を明らかにし、(2)それぞれの言語を公平に見る(相対化する)ための視点を見出す研究である。この講義では、対照研究の基本的な考え方について述べるとともに、井上がおこなった対照研究(主にモダリティの対照研究)の事例を紹介する。対象言語は主に日本語・中国語・韓国語である(中国語・韓国語に関する知識は必要ない)。

4. 学習の到達目標：

対照研究の基本的な考え方、および「2つのものを公平に見る視点を見出す」感覚を理解する。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 対照研究とは何か
- 2 対照研究のタイプ(1)
- 3 対照研究のタイプ(2)
- 4 日本語と中国語の外来語受容法
- 5 日本語の「ぼかし表現」をめぐって
- 6 日本語研究から対照研究へ：日本語と中国語の真偽疑問文
- 7 領域感覚とモダリティ(1)：平叙文・疑問文・確認文の選択
- 8 領域感覚とモダリティ(2)：「意味」と「語用」
- 9 独立型の文法と協力型の文法
- 10 「気持ちの言語化」の対中対照
- 11 日本語と中国語のコミュニケーション(1)：「はっきり」と「あいまい」
- 12 日本語と中国語のコミュニケーション(2)：「会話」と「一言」
- 13 日本語と中国語のコミュニケーション(3)：「親しみ」と「はりあい」
- 14 対照研究と言語教育
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

受講態度およびレポートにより評価する。欠席が多い場合はレポートの提出を認めない。

7. 教科書および参考書：

(参考文献)

井上優『相席で黙っていられるか―日中言語行動比較論―』(岩波書店、2013年)

生越直樹編『シリーズ言語科学4 対照言語学』(東京大学出版会、2002年)

中川正之『漢語からみえる世界と世間』(岩波現代文庫、2013年)

8. 授業時間外学習：

- 1 回目の授業の際に講義資料を配布するので、事前に目を通しておくこと。

9. その他：なし

科目名：学習・言語心理学特論Ⅰ／Psychology of Language and Learning (Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：木山 幸子（准教授）

講義コード：LM13208， 科目ナンバリング：LIH-LIN605J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 言語学特論Ⅳ】

1. 授業題目：

学習・言語心理学方法論

2. Course Title（授業題目）：

Methodology of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：

学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、調査・実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。また、グループワークを通して、専門的な文献の要点を把握する基本的読解力と研究のプレゼンテーションの基礎を身につけることを意図しています。

4. 学習の到達目標：

学習・言語心理学の関心事の要点、また主要な方法論の概要を理解する。自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

1. ガイダンス（教員）
2. 測定法・実験デザイン（教員）
3. 実験研究の論文構成（教員）
4. 生得的行動（受講生）
5. 条件づけ（受講生）
6. 強化（受講生）
7. 刺激性制御（受講生）
8. 高次の学習・行動（受講生）
9. 中間まとめ（教員）
10. 言語と文化（受講生）
11. 語彙の獲得（受講生）
12. 文法の獲得（受講生）
13. 言語と障害（受講生）
14. 言語の生物学的基盤（教員）
15. まとめとテスト

6. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）

7. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献のパッケージを配布する。

8. 授業時間外学習：

受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

9. その他：なし

関連する調査や実験に参加してもらう機会を設けます（参加は任意）。

科目名：言語学総合演習 I / Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：後藤 斉、小泉 政利、木山 幸子（教授、准教授）

講義コード：LM15404， 科目ナンバリング：LIH-LIN606J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語学研究演習 I 】

1. 授業題目：

言語学研究法 I

2. Course Title（授業題目）：

Methods and practices of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものにすることに貢献する。

4. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答
3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答
4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答
5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答
6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答
7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答
8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答
9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答
10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答
11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答
12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答
13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答
14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：言語学総合演習Ⅱ／Linguistics (Integration Seminar) Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：後藤 斉、小泉 政利、木山 幸子（教授、准教授）

講義コード：LM25403， **科目ナンバリング：**LIH-LIN607J， **使用言語：**日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

言語学研究法 Ⅱ

2. Course Title（授業題目）：

Methods and practices of linguistic research Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものにすることに貢献する。

4. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答
3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答
4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答
5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答
6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答
7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答
8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答
9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答
10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答
11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答
12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答
13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答
14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

8. 授業時間外学習：

発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

9. その他：なし

科目名：言語学研究演習Ⅰ／Linguistics (Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期，単位数：2

担当教員：後藤 斉（教授）

講義コード：LM25208，科目ナンバリング：LIH-LIN608J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：言語解析学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

実践音声学

2. Course Title（授業題目）：

Practical phonetics

3. 授業の目的と概要：

言語の音声面の理解を理論的かつ実践的に深める。

4. 学習の到達目標：

音声言語の生成と記述、分析について、観察と訓練をへて、実践的な理解を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス、言語における音声

第2回：気流機構

第3回：発声

第4回：子音の調音：狭め

第5回：子音の調音：位置

第6回：同時調音、二次的調音

第7回：音連続

第8回：母音の調音

第9回：基本母音

第10回：母音の音響学

第11回：プロソディー

第12回：持続時間

第13回：音素

第14回：音素体系

第15回：全体のまとめ

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

キャットフォード『実践音声学入門』（大修館書店、2006）

参考資料は授業中に適宜配布する。

8. 授業時間外学習：

授業時間外の実習や観察が必要となる。

9. その他：なし

科目名：言語学研究演習Ⅱ／Linguistics (Advanced Seminar) II

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LM13408， 科目ナンバリング：LIH-LIN609J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語解析学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

統語論初中級

2. Course Title (授業題目)：

Syntax: Elementary/Intermediate Level

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. X バー理論 1
3. X バー理論 2
4. X バー理論の機能範疇への拡張 1
5. X バー理論の機能範疇への拡張 2
6. 意味役割 1
7. 意味役割 2
8. 助動詞と機能範疇 1
9. 助動詞と機能範疇 2
10. 主要部移動 1
11. 主要部移動 2
12. DP 移動 1
13. DP 移動 2
14. Wh 移動 1
15. Wh 移動 2

6. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

9. その他：なし

この授業は入門レベルの統語論の基礎知識（言語獲得におけるプラトンの問題，句構造規則，c 統御，束縛原理 A など）を持つ人向けです。これまで統語論を全く勉強したことのない人は，履修登録をする前に授業担当者（小泉）に相談してください。

This course is open to students who have completed an introductory course of syntax.

科目名：言語学研究演習Ⅲ／Linguistics (Advanced Seminar) III

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：木山 幸子（准教授）

講義コード：LM21204， **科目ナンバリング：**LIH-LIN610J， **使用言語：**日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 言語解析学研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：

言語実験・調査実践

2. Course Title（授業題目）：

Practical experiments and surveys of language

3. 授業の目的と概要：

本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が適宜助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの（小さな）研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れもらうことを期待します。

4. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- ・ガイダンス
- ・テーマ策定
- ・研究デザイン立案
- ・研究デザイン修正
- ・研究デザイン確定
- ・実験・調査準備
- ・実験・調査実施
- ・取得データ分析
- ・データの解釈
- ・研究のまとめ
- ・研究成果の共有

6. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（50%）

7. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。

9. その他：なし